エピソード42
音に過敏な子どもの様子を保護者に伝えました。

なみちゃん
　小学校教師として25年以上の経験があります。
エデュサポネットのファシリテータです。

COPYRIGHT © 2021 UEKI Katsumi, HOKKAIDO UNIVERSITY OF EDUCATION all rights reserved.

熟年の先生が中堅の頃、小学校２年生を
担任したときの経験をお聞きします。

小学校１年生のときから担任していた
あきら君は、２年生になってから、
音をとても気にするようになりました。

最初はリコーダーの音を聞いて「耳が痛く
なった。頭も痛くなった。」と言いました。

あきら君の様子は、その後どうでしたか。

他の音にも反応するようになり、鈴の音、
椅子を引く音、と増えていきました。

学校にはいろいろな音があります。
とうとう教室にいられなくなってしまい、
隣の図工室で学習してもらうほどでした。

あきら君の保護者は、
様子を聞いてどうでしたか。

お母さんは「コンサートに行ったとき、
会場にいられなくなったことがあったが、
興味がなかったのだと思った。音が嫌だと
言ったことはない」と困惑されていました。

あきら君は、関心がある話には夢中になり
ますが、関心がないことには、まったく
興味を示さないところがありました。

その後、どんなことがありましたか。

あきら君を図工室で観察してくれた
特別支援コーディネーターの先生から、
「どんな音に反応しているか、少しの間
記録して保護者に伝えてあげるといいよ。

耳栓やイヤーマフが必要なレベルか、
知らないとね。」と言われました。

コーディネーターの先生は、
気づいたことがあったのですね。

先生は「それともうひとつ。あきら君は
将来のためにって、お母さんから習い事を
勧められ、現在週４日も行っているんだよ。

図工室でも、今日の宿題ができるかなって
心配していたよ。」と教えてくれました。

コーディネーターの先生が教えてくれたことから、どんなことを考えましたか。

私は、あきら君が音に敏感なことばかり心配していたけれど、あきら君の背景に目を向けていなかったことに気づきました。

学校だけじゃなく、家庭での様子とか、どんな環境で生活しているか、子どもの背景を知ることも大切だと思いました。

先生は、コーディネーターの先生と
協力したのですね。

あきら君がどんな音に反応しているのか、
観察して記録しました。お母さんは、その
記録を小児科医に見せて、相談しました。

またお母さんは、あきら君の言葉を
伝えると、ハッとした様子でした。

なみちゃんの一言

- いろいろなものに対して、過敏な子どもたちがいることがわかってきています。
- 普段の生活をよく観察することで、解決の方向が見えてくることがあるのですね。
- 子どものふとした一言から、家庭での生活が垣間見えることがあります。そんなつぶやきに、子どもの不安を感じたときは、家庭と協力して見守っていけるといいですね。

お・し・ま・い

イラスト　尾上樹里
（北海道教育大学 大学院生）

COPYRIGHT © 2021 UEKI Katsumi, HOKKAIDO UNIVERSITY OF EDUCATION all rights reserved.